

鹿児島県有機農業協会【koaa】機関紙

こあ・ふれす

Vol. 51

2011年9月 16日発行

<発行>

〒890-0046 鹿児島県鹿児島市西田 2-11-8 明日ビル 2 階
TEL 099-258-3374 FAX 099-258-2204
ホームページ <http://www.koaa.or.jp>
e-mail koaa@koaa.or.jp



NPO法人 (特定非営利活動法人)
鹿児島県有機農業協会
NPO Kagoshima Organic Agriculture Association

オーガニックイベントの秋到来・・・みんなで広げよう有機農業

専務理事 大和田明江



暑い暑い夏も過ぎ、いつの間にか涼やかな秋風が吹いています。今年ももうすぐオーガニック映画祭がはじまり、そして11月にはオーガニックフェスタが開催されます。こうした活動を通して、まだまだ十分とは言えない有機農業、オーガニックへの理解が広がっていくようにみんなで心を一つにして取り組んでいけたら、と思います。

鹿児島県有機農業協会は、国の有機認証制度の開始に伴い、消費地から遠い地方の有機農業がさらに困難な状況に陥らないようにと、心ある皆さんの協力のもと1999年12月に創立されました。以来有機認定の登録認定機関として、また同時に鹿児島県有機農業研究会（元鹿児島市長、平瀬実武さんを中心に1978年に設立）の発展的解消を受けての運動団体として、二つの責任ある仕事を担うことになったのです。

登録認定機関の基礎を築いてくださった初代判定委員長の上入来志良さんは、よく「有機農業は、道なき道を行くのだから」と苦労も努力も当たり前と達観して、いつも楽しげに仕事をし、たくさんのことを教えてくださいました。それから二代目の判定委員長と理事長を務めてくださった守田和夫さん。大学の教員という激務の中にありながらいつも身近な存在で、生きもの調査ではバスの運転手役、そして協会の大変な時期は共に悩み闘ってくださいました。多くのみなさんのこうした献身的な支えや思いがあって、今日までやってこれた協会の活動を、これからも大切に引き継いでいきたいと思っています。

9月1日、県の委託事業として初めて協会主催で開催された「平成23年度第1回目有機農業現地研修会」には、150名もの参加者が集まりました。県農業開発総合センター茶業部の2階は、「かつてない人数」に席が足らず、立って話を聞く人も・・・。「無農薬ではお茶はできない」と常識のように言われ、茶の産地が水質汚染地域として大きく問題になったのは、ここ数十年のこと。環境汚染や健康被害を引き起こす農業のあり方を憂い、人と人、人と自然の生命の共生や地球の資源の公平な分配などを目指した有機農業運動が地域に広がっていくために、小さな協会が果たす役割はこれからもますます大きくなっていくことと思います。

みんなで力を合わせ、未来を切り拓いていきましょう。

今号の目次

- 表紙「みんなでひろげよう有機農業」・・・ 1
- フェスタ各エリア紹介・・・ 2～3
- オーガニック映画祭開催案内・・・ 4
- 畑の学校活動報告・・・ 5
- 現地研修会開催報告、「旧暦紙上研究会」No18・・・ 6
- 認証関係のお知らせ・・・ 7
- 協会からのお知らせ・・・ 8



開催間近！オーガニックフェスタ

ORGANICFESTA ORGANICFESTA

開催日時：2011年11月6日（日）10時～16時30分
 開催場所：ドルフィンポート前広場（ウォーターフロントパーク）
 エリア紹介 ⇒キッチンエリア（オーガニックな飲食エリア）
 ⇒マーケットエリア（オーガニックなお買い物エリア）
 ⇒ふれあいエリア（情報発信、体験エリア）
 ⇒全体企画（ステージ、ふるまい豚汁、その他いろいろ特別企画）



今年は更に、前日11月5日夜18時から“フェスタ前夜祭”をドルフィンポート1階デッキで開催予定。電気の灯りを落とし、ろうそくの灯りの下でミニライブ、トークなどを検討しています。以下、各エリアの実行委員事務局から今年の企画や取組についてご紹介します。皆様も是非、ご協力、参加など、よろしくお願い致します！

マーケットエリア♪



「オーガニックフェスタは毎年出展を楽しみにしているイベントです！」
 「あのイベントにいけば、安心でおいしいものが買えるよね。」
 そんな声が聞きたくてマーケットエリアに関わって3年目。今年のマーケットエリアの目標は、出展者同士や出展者と来場者の交流の場となることです。出展者がどんな方かを知っていただくために、初めての試みとして農産物と加工品について、実行委員で考えた基準により、それぞれ“三ツ星”で評価させていただきます。ただし、間違っははいけません！オーガニックフェスタにご出展される方は皆さん、熱い想いをもって日々努力されている方々ばかりです。フェスタの中では星一つ（★）でも、一歩外にできれば、その努力によって作られたものは素晴らしいものなのです。
 「日々の暮らし、食べるものを少し変えてみようかな？」と、一人でも多くの方が感じてくださるよう、マーケットエリアは出展してくださる皆さんの力を借りてオーガニックフェスタを盛り上げます！
 （事務局 かごしま有機生産組合 馬場）

ORGANIC FESTA 2011

キッチンエリア♪



キッチンエリアでは、『おいしいを伝える・やさしさを広げる』をテーマに今年も動き出しました。“有機のものだから安心、有機のものだからおいしい”と、頭で考えて選択するのではなく、心からおいしい・やさしいと感じて、有機のものを選択するきっかけになるよう、有機野菜やこだわりの素材を使用したフードやドリンクの提供で、来場者の心をつかみたいと思っています。
 今年は有機野菜をメインにした料理を提供するよう、出店者にもご協力をいただいています。他にも天然酵母や国産小麦、平飼いの卵を使用したパンやスイーツ、オーガニック珈琲や有機茶葉を使用したドリンクなど、こだわりのフードやドリンクの数々に、お腹も心もいっぱいになるでしょう。パワーアップした出店条件にも関わらず、今年もたくさんのお店お申込みをいただいています。ご協力頂きたくさんの方に感謝しながら、キッチンエリアからオーガニックを発信していきます！！
 （事務局 鹿児島県有機農業協会 末吉）

ふれあいエリア

相談コーナー

- ★有機農業参入・研修コーナー
- ★有機 JAS 認証

昨年度はワークショップエリアと呼ばれていましたが、今年度はより親しみやすい「ふれあいエリア」という名称に変更されました。

扱うテーマは、農業・オーガニック・エコ・環境保全・食の安全・食育・ボランティア・福祉など。「ふれあいエリア」は、そのようなことに関する情報発信・活動紹介・体験コーナー・相談コーナー・パフォーマンス等が展開されるエリアとなっております。

その名の通り関心のあるテーマを「見て・聞いて・話して・感じて」、興味と理解を深め、心を通わせることが当エリアの目的です。ご来場された際には是非お立ち寄りください。

(事務局 鹿児島県有機農業協会 田原)

展示コーナー

- ★有機農業のパネル
- ★環境保全型農業のパネル
- ★食の安全に関するパネル&パンフ

セラピー体験

- ★ハンドマッサージ
- ★クイックトリートメント
- ★カラーアートセラピー

もの作り体験

- ★紙ねんど工作教室
- ★マイ箸づくり
- ★豆腐づくり

情報発信・紹介等

- ★畑の学校の活動
- ★有機農業について

20を超える豪華出展者たちがバラエティー豊かな内容でお待ちしております！

全体企画エリア

今回のオーガニックフェスタの全体企画エリアの取り組みを紹介します。

まずは『ステージ』。広場の真ん中に位置し大事な部分ですが、現在8出演者とオーガニックに関するミニトーク、他エリアのインタビューが小刻みに入る予定です。ステージ電源もバイオ燃料にこだわる予定。いろいろな想いを無事に伝えられるよう検討中です。

また今年の新企画『命をいただく』では、会場で実際に鶏と4つ足動物をさばいて、食すところまで行い、食べる(命を頂いている)ことの意味を来場者と再確認します。

これまた新企画『出会いの場』のテントを設け、各地に点在する若いオーガニックファーマーと素朴な質問、価値観、生活ぶりなどを自由に会話できるようにします。ほかに、昨年も大盛況だった『ふるまい豚汁』、『ミニ動物園』、『遊具』、『子供たちと遊ぶ』企画など盛りだくさん！実行委員としては、当日一発勝負なのでハラハラですが、来場者に楽しみながらオーガニックに触れて頂ければと思っています。

(事務局 かごしま有機生産組合 安楽)



毎年恒例！必見です！
 匂を持って踊るオーガニックダンス！
 ~昨年のパフォーマンスより



オーガニック映画祭 開催案内

秋と言えば、食欲の秋、読書の秋、。そして映画の秋！！
今年もオーガニックフェスタに先行して、「国際オーガニック映画祭」を天文館のマルヤガーデンズにて開催します！鹿児島コミュニティシネマはもちろん、フェスタ実行委員会の有志や消費者、その他、食や環境に興味ある方等と、試行錯誤しながら企画しました。是非とも天文館「マルヤガーデンズ」にお越し下さい！



開催日: 2011年9月30日(金)～10月2日(日)
開催場所: ガーデンスシネマ (マルヤガーデンズ7階: いろ通り電停より徒歩1分)
前売料金: 長編1作品 1,000円、短編1回2作品 600円
長短3作品(長編2作品、短編1回) 2,300円、全作品通し券 3,800円
※会員の方は同封しております会員優待券にて前売り価格で入場可能です。

上映作品(長編) ※その他短編(「水は誰のものか」「バイオ燃料」「海と森と里と」「コーヒーの秘密」)

【フード・インク】



アメリカの食品産業の裏側に隠された衝撃の実態を暴き出し、アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門にノミネートされた話題作。ひと握りの人々が莫大な利益を得る一方で下請けにあえぐ一般農家、さらに日本でも未だに表示義務のない遺伝子組換え食品の問題など、農業や畜産の巨大工業化が生み出した数々の弊害をあぶり出していく。

【森間き】

文化消滅の先端にあるとも言える日本で、100人の高校生が、100人の“森の名人”を訪ねる試みが続けられている。山の暮らしの知恵や技、人生を聞き書きするための。綱一本で大木に登る76歳のおじいちゃん、10歳から焼き畑を続けてきた85歳のおばあちゃん。高校生たちは、年輩いた名人の言葉に揺さぶられて行く。柴田昌平監督。



【やぎの冒険】



監督は中学生、14歳の仲村颯悟。沖縄のトップのスタッフが集結して結成した「やぎの冒険」は、製作資金、スタッフ、すべてにおいて純度100%の沖縄映画。やぎを食べる文化のある沖縄ヤンバル地方を舞台に、街の少年と土地の少年の交流を通し、この土地で長く育まれてきた伝統の“食文化”の意味を知ること、主人公の少年が成長する姿を描き出す。

【セヴァンの地球のなおし方】

1992年の地球サミットで世界中の人の心を動かした12歳の少女セヴァン・スズキの現在の活動と、日本やフランスで子どもたちの未来を救うために食を守る闘いを続ける人々を追うドキュメンタリー。福岡県でオーガニック米を作る合鴨農法やフランスのバルジャック村近くの原子力発電所問題などを徹底取材。12歳の少女が訴えた窮状がまるで改善されていない現実を提示する。



同時開催！

※事前お申し込みをお願いします。お気軽にご参加ください！

「みんなで餅つき交流会」参加費 1000円/当日申込 1200円(お餅+1 drink+有機野菜の料理 2.3品など)
10月1日(土) 18時10分～ 於: マルヤガーデンズ屋上庭園ソラニワ
～オーガニックな仲間作り・・映画を見ての感想など、自由にお話しましょう！



セヴァンの地球のなおし方上映記念！「セヴァン・デイ」

10月2日(日) 13時～14時30分 於: マルヤガーデンズ7F オープンガーデン
1992年環境サミットにおける12歳セヴァンの伝説のスピーチ上映、トークイベントなど

畑の学校 経過報告



☀ 第3回 6/12

開校してから1ヶ月の間に、種が芽を出し、苗が成長し、花が咲き始め、畑の学校に緑が増えました。7月の田植えに向けて、種籾の種まきをしました。

☀ 第4回 7/3

ピーマン、ナス、トマト、キュウリを収穫しました。判定員の濱田さんが、子どもたちに綿がどうやってできるのか見せたいということで、綿の苗を持ってきてくださり、みんなで苗を植えました。コットンボールが弾け、白い綿が吹き出す日が楽しみです。

家族の畑の野菜も順調に育っています！



☀ 第5回 7/10

参加者のほとんどの方が初めての田植え体験！泥にぬかるみ苦戦しながらも、泥の感触を楽しみながら一つ一つ大事に植えていきました。収穫したお米の一部は、福島の子供給食に役立ててもらおう予定です。

☀ 第6回 7/24

虫の講師塚田先生を招き、生き物調査を行いました。自分で捕まえてきた虫の説明をしてくれる先生を前に、子どもたちはいつにも増して目を輝かせ虫を追いかけていました。

☀ 第7回 8/7

収穫野菜や今村校長より提供していただいた野菜を使って、バーベキューをしました。自分で育てた野菜や、盛りだくさんの有機野菜に、心もお腹も満足した様子でした。子どもが普段よりもたくさん野菜を食べている、というお母さんからの声もあり、大好評のバーベキューでした。

☀ 第8回 8/21

秋冬野菜の植えつけの準備をしました。草取りや追肥をして畑を耕します。みなさんどんな野菜を植えようかと楽しみにしている様子です。



スイカ割りもしたよ！



☀ 第9回 9/4

2回目となる虫の調査。今回は土壌動物を調べました。同じ畑の土でも、場所によって異なる虫の種類や数に、子どもたちも驚いていました。普段なかなか触れることがない土の中の世界。たくさんの生き物たちに支えられていることを実感しました。



これからもイベントが盛りだくさん！県内の有機農家を巡るバスツアーや稲刈り、竹細工体験や餅つきなど・・・これからもみなさんに「次回の学校が待ち遠しい！」と思ってもらえる内容にして、楽しく有機農業について学んでいきたいと思ひます。次号もお楽しみに♪



有機農業推進事業の報告

☆平成23年度有機農業現地研修会(有機茶@知覧町)開催報告!



平成20年8月に鹿児島県で策定された「鹿児島県有機農業推進計画」に基づく「有機農業推進事業」の委託を受け、今回初めて協会主催で、「平成23年度第1回有機農業現地研修会」を開催しました。会員の皆様のご協力により、予想をはるかに上回り、参加者は約150名!! 鹿児島県農業開発総合センターでは、室内に入りきらず、立ち見もでるほど。試験場の有機茶に関する試験研究の発表や、降灰や病害虫対策となる「サイクロン式吸引洗

浄装置」の実演の後、(有)塗木製茶工場のほ場、堆肥舎、そしてオプションで茶工場の見学を行いました。塗木製茶工場スタッフの皆様には、現地ほ場までの移動の道のりに人員配置や、工場での冷茶(緑茶、紅茶、烏龍茶)の準備などの多大なる協力を頂き、無事に研修会を終えることができました。次回は、1月頃を予定しております。ご要望など、是非事務局まで!



吸引洗浄装置の実演

開催日時:平成23年9月1日(木) 13:00~16:00
 開催場所:鹿児島県農業開発総合センター茶業部
 (有)塗木製茶・ほ場及び堆肥舎、茶工場(知覧町)
 参加者人数:150名(生産者、加工業者、問屋、市場関係者、
 県、市町村等行政関係者)
 テーマ:「有機栽培の生物多様性保全の効果と意義」「有機JAS規格に対応した施肥・防除体系下の茶の収量と品質」、「茶市場から見た有機茶の現状と課題について」など



塗木製茶工場の巨大堆肥舎



連載コーナー ~旧暦 紙上研究会 No.18~ 理事 八幡 正則

「二十四節気」の話(その3)

「仲秋の名月」一、この原稿を書いている今日は、旧暦8月15日の満月です。旧暦では、毎月15日が満月なのに、なぜ8月の満月を「名月」というのでしょうか。実は、北半球では太陽と月の角度の関係から、旧暦8月が最も明るく澄んだ月が見られるのです。昔の人びとは、8月が「月見」に最適だということをとらえ、「二百十日」と「二百二十日」の台風襲来の時期も、事無く過ぎて秋の実りを実感できますので、お祝いをしたわけです。なぜ仲秋(中秋)なのか。旧暦の秋は7、8、9の3ヶ月です。8月が秋の真ん中なので「中秋」と名づけたのです。

旧暦の「秋」を見てみましょう。

- 立秋(りっしゅう)を七月節といいます。一秋のはじめ、新暦8月8日。
この日から立冬の前日までが秋です。一番暑い頃ですが、あとは涼しくなるばかりの意で、暑中見舞いはこの日まで、あとは残暑見舞いです。
- 処暑(しょしょ)を七月中といいます。一新暦8月23日。
処暑は暑さが止むという意。萩の花が咲き、朝夕は涼しくなる頃です。台風のシーズンでもあります。
- 白露(はくろ)八月節一新暦の9月8日。
野にススキの穂が顔をだし、朝夕の心地良い涼風に秋の趣が感じられます。
- 秋分(しゅうぶん)八月中一新暦の8月23日。
昼夜の長さが同じで、秋彼岸の中日。秋の七草が咲きそろそろ頃です。
- 寒露(かんろ)九月節一新暦の10月9日。
冷たい露の結ぶ頃で、いよいよ秋の本番。菊の花が咲き始め、山の木々は紅葉の準備に入ります。秋晴れの日が続き、収穫に忙しい時期です。
- 霜降(そうこう)九月中一新暦の10月24日。
北国や山間部では草木の露が霜になり、白く化粧する頃。紅葉の時期になります。動物は冬籠りの準備、冬鳥が渡ってまいります。
次が「立冬」(11月8日)で、冬の季節に入ります。次号に続く・・・。

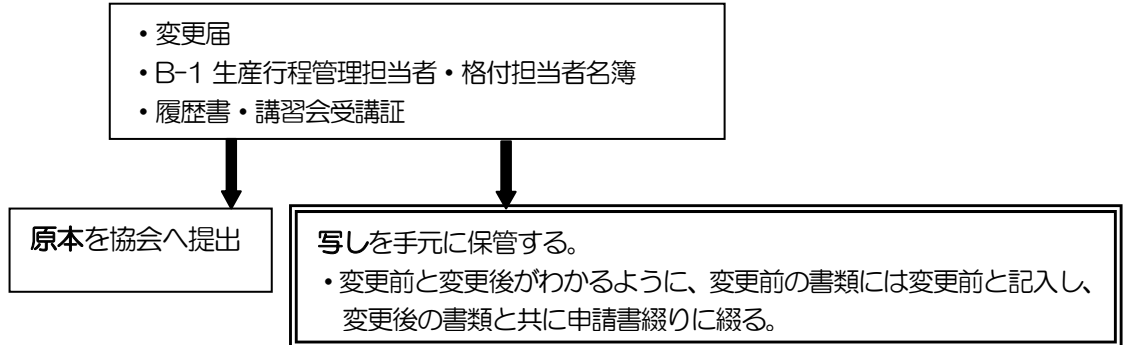


協会事務局より認証関係のお知らせ

☆お手元の申請書の管理について..

記録の保管などの管理は徹底されていると思いますが、意外と見落としがちなのが申請書（写し）の文書管理です。申請書は原本を協会に提出し、写しを保管しておくことになっています。この申請内容（ほ場、工場の面積、その概要、担当者、生産行程、使用する資材、材料など・・・）に基づいて協会の認定を受けていることを証する重要情報です。申請内容に変更が生じ、変更届と共に申請書の一部を提出している場合、変更後の書類を手元に保管しておく必要があります。申請書は10数ページに及びますので、全ページを同じファイル綴りにまとめておいてください。

例) 格付担当者を追加する場合



年次調査で検査員が確認します。誰がみてもわかりやすいような形で、最新の申請状況が把握できるように認定申請書の文書管理をよろしく願います！



農林水産省からのお知らせ

☆肥料中の放射性セシウム測定のための検査計画及び検査方法」の制定について

先般、「放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値の設定について」(平成23年8月1日付け農林水産省消費・安全局長、生産局長、林野庁長官及び水産庁長官連名通知)により、肥料中に関する放射性セシウムの暫定許容値を定めたことにつきましてお知らせしたところです(注1)。

これに関連して、今後、肥料中の放射性セシウムの暫定許容値への適合性を判断するための検査が的確かつ適正に進められるよう、別添のとおり(注2)「肥料中の放射性セシウム測定のための検査計画及び検査方法」を定めましたのでお知らせいたします。今後、本文書に示す計画策定・方法的確な運用につき特段のご配慮をよろしくお願いいたします。

なお、別紙のリストに掲げた(注2)化学肥料等につきましては、密閉された施設内で、製造・品質管理に基づき製造されることが多く、また、豚ふん肥料や鶏ふん肥料については、豚や鶏には専ら配合飼料が給与されているため、豚ふんや鶏ふん中の放射性セシウムの含有濃度が低いことから、適切な管理が行われている限り、必ずしも検査が求められるものではありません。また、堆肥につきましては、空間放射線量等のデータから、高濃度の放射性セシウムにより汚染されている蓋然性が高いと想定される堆肥を重点的に検査対象とすることにしておりますので、併せてご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。(以上転載)



お問い合わせ先) 農林水産省消費・安全局農産安全管理課 担当者: 肥料企画班、肥料検査指導班

代表: 03-3502-8111(内線 4508) ダイヤルイン: 03-3502-5968

注1) 8月中旬に会員の皆様にお送りした「Organic」にて本通知はお送りしました。

注2) 別添の内容などの詳細は今回ご紹介しておりませんが、ご興味ある方は上記連絡先にお問い合わせ下さい。

**有機農業でつながり若手大集合！九州わけもんのかい 開催報告！！**

【若けもんのかいかごしま事務局 園山宗光氏寄稿】

以前から九州の若者の中でネットワークを作ってはどうかという意見があり、今年1月に霧島市で開催した九州山口有機農業の祭典をきっかけとして、この度九州・山口の若けもんの集いを開催することができました。日頃なかなか集まることができない有機農家や流通関係者、農業に関心がある人などが集い、8月27日-28日の一泊で、意見交換や勉強会を行いました。

初日は鹿児島県代表で園山秀国氏、熊本県代表で安藤光一氏がそれぞれ活動報告を行い、トークセッションへ。園山氏は自身の経験談を交えながら農業に対する考え方や現在取り組んでいる事柄を紹介し、流通関係の参加者や新規就農者等に意見を求め、活発な意見交換が行われました。その後、鹿児島で活動するフレンチのシェフによる有機野菜料理の講話が行われ、美味しく楽しく食べながらの勉強会で一夜を語りあかしました。

2日目は久木田氏の種とり講座から開始。用意された伝統野菜から種を採取する方法などを実際にやって見せながら紹介、参加者からは質問が相次ぎました。その後は、園山秀国氏の土づくり講座として、農業者向けの少しふみ込んだ内容で、土作りや堆肥づくりについての紹介を行いました。

最後に農作業効率化についての意見交換会を杉村未知男氏が担当し、自身の作業効率化に関するエピソードを紹介し、参加者にも意見を求めました。

二日間という短い時間でしたが、九州・山口の各県から40名ほどが集まり活発な意見交換をし、有機農業に関する勉強ができたことは大変意義がありました。初めて会う方から「同世代の人たちの声を聞くことができてよかった」と言ってもらえたことで、こうした機会を設けてよかったと感じました。また今後も継続してこのネットワークを利用し、様々な意見交換の場を設けていくべきだと痛感しました。なぜなら新規就農者や、就農を考えている人にとって、同じ仕事をしている若者と話ができるというのはこれ以上ない喜びであり、情報源であるから。有機農業を「安心・安全」「環境に優しい」で終わらせることなく、生産者が自立した生活を送り、市場にたくさんの有機野菜を供給できるよう、参加者が増えていくことを心から願います。



若けもんのかいに興味ある方は、園山宗光さん（NPO法人かごしま食の家族事務局長）まで！

E-mail: kagoshima_genkiyasai@yahoo.co.jp

(tel/fax099-283-0010: 常駐ではないので、できればメールを！)

**イベントのお知らせ****☆持続型畑作農業研究会・農研機構有機農業体系プロジェクト現地検討会の開催案内**

鹿児島県有機農業協会の認定事業者でもある「九州沖縄農業研究センター都城拠点（旧国立農業試験場）」は、国の研究機関として唯一有機JASの認定を取得されています。この度、有機農業に関する研究会を都城、霧島地域で開催されます。会員の皆様も是非ご参加下さい。《お申し込みはお早めに！》

日 時：平成23年10月13日（木）13:00 ～ 10月14日（金）15:15

内 容 等：第1日目 13日 13:00～17:15（情報交換会）（ホテル中山荘 都城市松元町3-20）

基調講演大和田志志人（かごしま有機生産組合代表）その他実践報告、研究発表

第2日目 14日 8:00～15:00（現地見学会）都城市、霧島市

（株）アウル、九州沖縄農業研究センター都城研究拠点、（株）久木田農園、（株）エコ・スマイル

参 加 費：検討会：無料、情報交換会（5000円）

申込＆問合：九州沖縄農業研究センター 畑作研究領域 畑輪作研究グループ 新美 洋

E-Mail niimi@affrc.go.jp TEL:0986-24-4276（直通）